

Airstretcher® series

エアーストレッチャー®は医療用搬送具として米国FDA(米国連邦食品衛生薬事局)、MDM(メディカル・デバイス・マニファクチャリング)の認定・登録を日本で初めてそれぞれ取得しました。



エアーストレッチャー®・ラップ・ローバル/クイック・ローバル/キング・ローバル使用方法

[型式CYR-04T] [型式CYW-08Q] [型式CYG-03T]

ご使用
いただく
前に!

- ★エアーマットはアメリカからの輸入品のため、圧縮機で約2tの圧力をかけて巻いてあります。最初は空気の入りが悪い場合がありますが、使用毎に空気の吸入・排出は良くなります。
- ★ご使用前に、暖かな部屋で一晩広げておくことをお勧めします。空気の入りが良くなります。
- ★完全防水加工されているので、寝具・敷布団としてご利用の場合は、通気性・吸収性を確保するため、特に夏季・梅雨時期等にはシーツを敷くことをお勧めします。

はじめに



エアーストレッチャー本体をキャリーバッグから取り出し広げます。エアバルブを左に回しバルブを開けると、マットに空気が自動的に吸入され、底部がクッション化されます。(空気が入りきるには約60秒～90秒程です)
空気が入ったらエアバルブを右に回し締め(緊急の場合、バルブは締めなくともかまいません。)
患者さん、傷病者の脇に置きストレッチャーに乗せます。
患者さん、傷病者を乗せたら必ず安全ベルトをロックし安定させます。(バレルロ式・バックル式があります。必ずロックされているか確認して下さい。)

二人搬送・廊下・道路例



ショルダーベルト、または、ハンドベルトをしっかり持ち、ベットから引き降ろします。(段差の目安は65cm位を上限として下さい。)(エアーマット内の空気がショックを和らげ痛くありません。)
ショルダーベルトは、肩からたすき掛にするか、ハンドベルトをしっかり持って下さい。
二人で搬送する場合、後の搬送者はストレッチャーの直後には立たないで下さい。(写真⑤) 後の搬送者は(写真⑥)ストレッチャーの横に立ち足元を10cm程上げるようにすると前の人も楽に引くことができます。

二人搬送・階段・段差例

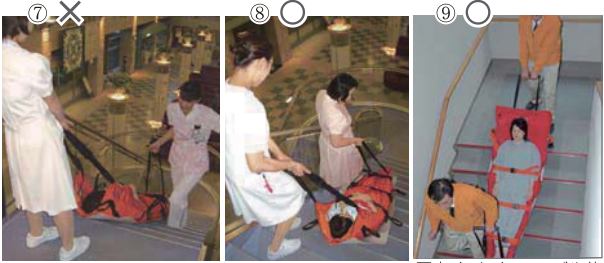


写真:クイック・ローバル仕様

階段搬送を二人で行う時は、階段1段目、初期動作を敏速に行ってください。(この動作をゆっくりしていると患者さんが不安になります。)
階段下にいる人はショルダーベルトを階段上方に引き(写真⑧・⑨・⑩)プレーキ役と降りる方向役となります。上の方はショルダーベルトを引き、速度のコントロールをします。階段下にいる人は、必ず進行方向を見て下さい。(写真⑦)の搬送方法は危険です。自分の足元が見づらい為です。
加速が過ぎると危険ですので、手摺りがあれば手摺を握る。壁などあれば肩・手を壁に当てると加速がコントロールできます。(写真⑩)



理想的な良い階段搬送例
写真: CYR-04T仕様

三連結担架棒使用例

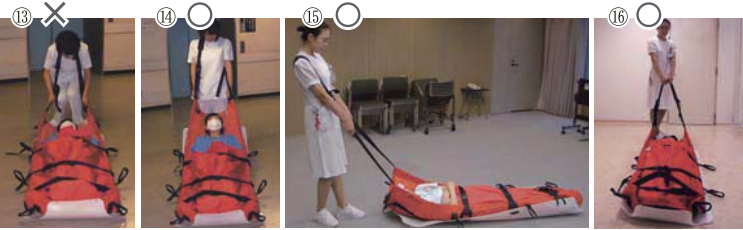


写真提供: 米国アリゾナ州・老人ホーム

別売のエアーストレッチャー三連結担架棒を使用することにより、棒担架としても使用できます。骨折患者、傷病者など体を曲げられない人を搬送する場合、ストレッチャーシェルサイドに棒を差し込むだけでさらに安定した搬送が可能になります。
(骨折、頭頸部、脊椎、腰椎などの損傷疑いのある傷病者は医師の指示によりスタビライザー等の安定具・固定具を使用して下さい。)



一人搬送と応用例



一人で患者さん、傷病者を搬送する場合、ショルダーベルトを強く引き、引っ張る方法(写真⑭)とショルダーベルトを肩から襷掛けにし胸を張って背中から引く方法(写真⑮・⑯)があります。(写真⑬)のような首で引くことはしないで下さい。エアーストレッチャーはいろいろ応用して搬送することができます。

オプション・ベルト使用例



別売のハンドベルトとショルダーベルトを使用することにより(写真⑰)抱えるように搬送することも可能です。(写真⑱)
(骨折、頭頸部、脊椎などの損傷疑いのある傷病者は医師の指示によりスタビライザー等の安定具・固定具を使用して下さい。)

写真:プロ・セフティ仕様

<エアーストレッチャー®を使用した訓練風景> 安全で正確にご使用いただくため、予行練習を行ってください。



写真提供: 長野赤十字病院(夜間訓練)

写真提供: 長野市民病院(集団災害訓練)

写真提供: 関東労災病院(階段訓練)